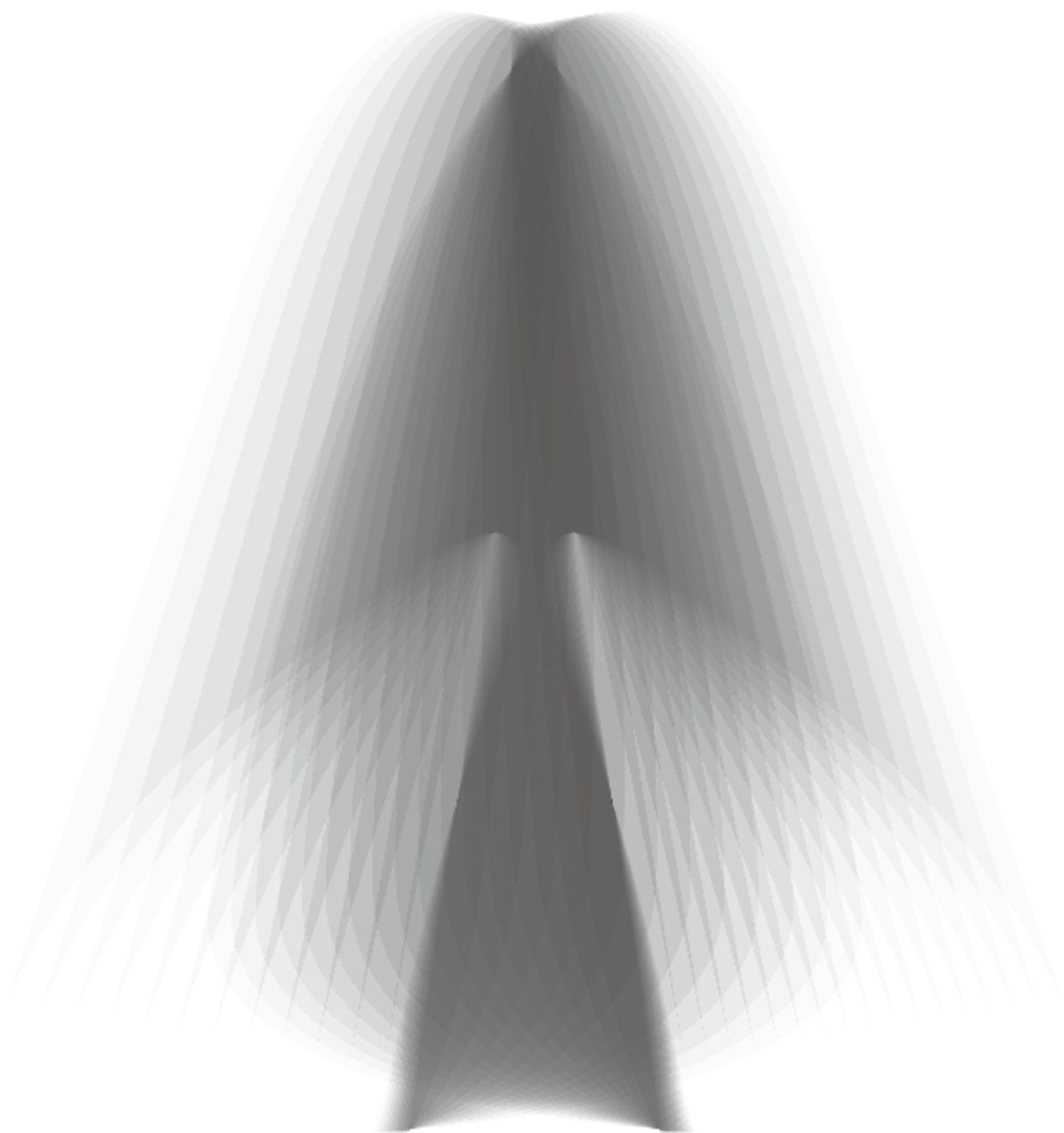


千葉大学教育学部研究紀要

Bulletin of The Faculty of Education, Chiba University Vol.70

ISSN1348-2084

第 70 卷



2022年3月
千葉大学教育学部

「千葉大学教育学部研究紀要」編集・発行要領

- 第1 この要領は、「千葉大学教育学部研究紀要」（以下「紀要」という。）の投稿及び編集・発行に関し必要な事項を定めたものである。
- 第2 紀要は、少なくとも各年度1回発行する。
- 第3 投稿資格者は、教育学部の教授、准教授、講師、助教、特任教員、非常勤講師（当該年度）、本学部附属学校副校長、教諭、栄養教諭及び養護教諭、日本学術振興会特別研究員（当該年度）とする。ただし、非常勤講師（当該年度）、本学部附属学校副校長、教諭、栄養教諭及び養護教諭、日本学術振興会特別研究員（当該年度）が投稿を希望する場合は、本学部の教授、准教授、講師、助教のいずれか1名の推薦を付することを条件とする。なお、共同研究者に関しては前記に限らないものとする。
- 第4 投稿する論文は、次のとおりとする。
- 一 未公開のものに限る。
 - 二 投稿者1人につき1編、刷上り10頁以内とする。ただし、投稿者が経費を研究費等により負担する場合はこの限りではない。
- 第5 原稿の作成については、別に定める「千葉大学教育学部研究紀要」投稿細則による。
- 第6 校正、修正及び編集等は、次による。
- 一 提出した原稿は、原則として変更を加えることが出来ない。
 - 二 活字、体裁等は、教育学部研究紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）が指定する。
 - 三 編集委員会が修正の必要を認めた場合は、投稿者と協議する。
 - 四 原稿の掲載順序は、分野ごとの原稿受付順とする。ただし、同一分野内に縦書き原稿と横書き原稿が混在する場合は、それぞれの受付順とする。縦書き原稿においては、原稿受付の遅いものから若い通し頁を付する。
 - 五 投稿者校正は2回とし、速やかに校正を行うものとする。遅延する時は編集委員会の責任において処理する。
 - 六 最終校正は、編集委員が行う。
- 第7 原則、別刷りについては50部までは本学部研究紀要経費で負担する。50部を越える場合は、投稿者が研究費等で負担することができる。
- 第8 紀要には、論文の他、編集委員会が必要とするものを掲載することができる。
- 第9 紀要に関する庶務は、西千葉地区事務部人社系総務課が担当する。
- 2 「千葉大学教育学部研究紀要」投稿原稿様式マニュアル等、紀要の様式に関する詳細は、西千葉地区事務部人社系総務課に用意する。
- 第10 紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属するが、各著作者は、本紀要の電子化・公開に必要な限度でその権利が編集委員会によって行使されることを承認するものとする。
- 第11 本編集・発行要領の改訂は、千葉大学教育学部、図書・紀要委員会の議を経る。

附 則

1. 本要領は、平成16年4月1日から実施する。
2. 第4条第2号に定める研究費等により負担できるものは、次の場合とする。
 - 一 頁を超過する場合。
 - 二 カラー印刷をする場合。
 - 三 2編以上投稿した場合。
3. 編集委員会の委員は、図書・紀要委員会の紀要担当委員をもって充てる。
4. 編集委員会の委員長は、図書・紀要委員長をもって充てる。

附 則

- この要領は、令和元年11月7日から実施する。
- この要領は、令和3年8月1日から実施する。

「千葉大学教育学部研究紀要」編集・発行要領 第4条第2号に定める投稿者の経費負担について

1. 投稿者一人について刷り上がり10頁を超過する場合は、超過した1頁につき、4,000円を当人の研究費（校費）等から負担するものとする。
2. カラー印刷によって増加した費用（時価）を、当人の研究費（校費）等から負担するものとする。
3. 投稿者一人について2編以上を投稿する場合は、2編目から1編につき、20,000円を当人の研究費（校費）等から負担するものとする。
なお、この場合も上記1. は、それぞれの原稿について適用されるものとする。
4. 「千葉大学教育学部研究紀要」投稿細則1-2による投稿申込書において、投稿者、執筆者を明記する。
5. この要領は平成24年12月1日から施行する。

目次

研究紀要 千葉大学教育学部

令和4年

第70巻

I. 教育科学系

●「オタク」概念の意味論的検討……………	藤川 大祐・渡邊 文枝・見館 好隆・小野 憲史	1
●保護観察におけるアセスメントツールの動的要因の再犯予測力…	羽間 京子・勝田 聡	7
●定時制高校でのアースを取り入れた理科授業開発と評価……………	西山 宜孝・山下 修一	13
●小学校4学年「水から水蒸気への体積変化」を粒子ブロックで説明させる授業の開発と評価……………	兼子 稔・山下 修一	21
●小学生の「必要性を超えた欲求による消費行動」に影響する要因……………	西村 美香・久保 桂子	31
—家庭科の指導内容の検討のために—		
●教育心理学史序説—第3報—……………	大芦 治	37
●オンラインツールを利用した家庭から学校への情報提供の実験的試み……………	藤村 鉄平・向野 光	45
—特別支援学校の児童生徒が定期的に受ける理学療法の訓練に着目して—		
●小学生を対象とした図書における障害者の扱われ方と障害者理解への影響に関する一考察……………	岡崎 千紘・石田 祥代	57
●小学校における生徒指導体制に関する現状と課題……………	鈴木 隆司	67
●日本人大学生を対象とした異文化理解教育の効果……………	藤谷 真麻・石井 雄隆	75
●中学校の生徒・教員のSDGsへの知識・関心についての調査……………	辻 耕治・平 大樹	81
—農業・環境教育の観点から—		
●体育の対象としての身体再考……………	杉山 英人	87
—矢田部英正の身体へのまなざしに着目して—		
●高校生におけるPMS・PMDDの実態および学校生活へ与える影響……………	山口 悠・野村 純	99
—保健室来室回数, 保健調査有症項目数, 欠席日数, 遅刻・早退日数との関連—		
●英語科教育に特別支援教育を関連付けた教職実践演習……………	星加 真実	111
—発達障害の疑いのある生徒への適切な対応のために—		
●乳幼児期の身体活動に関わる環境についての研究(2)……………	松寄 洋子・石沢 順子・土橋久美子	119
—「身体活動に関わる保育環境尺度試行版」の作成—		
●幼児におけるネガティブ刺激への情動的反応, 心の理論, 仲間関係の関連……………	中道 圭人・中道 直子・中澤 潤	127
●幼児におけるポジティブ情動の制御と仲間関係……………	高橋 実里・中道 圭人	135
●保育所の規模と保育のプロセスの質及び1-2歳児の社会情動的能力の関連……………	山田 千愛・砂上 史子・岩田 美保・高橋 実里	143
	中道 圭人	
●自閉スペクトラム特性児の社会情動的能力の評価……………	杉田 克生・中道 圭人	149
●千葉大学教育学部附属特別支援学校における「遊び」の指導の成立と維持……………	菅原 宏樹・真鍋 健	155
—1970年代から2010年代の実践に焦点を当てて—		
●音楽教科書にみる自国の伝統文化のあり方の検討試論……………	本多佐保美	161
—インドネシアの小中学校音楽教科書の分析をとおして—		
●現職教員の教育相談に対する認識を深める研修の試み……………	笠井 孝久	169
●The Survey of Teachers' Feasibility of Instructional Adaptation in Japanese Elementary Schools : ……	MIYADERA Chie	177
From the Replication of Tamaki et al.'s Survey.		

●科学技術振興機構グローバルサイエンスキャンパスの支援による千葉大学ASCENTプログラムの開発	野村 純・Jose Said Gutierrez Ortega 音 賢一・高橋 徹・足立 欣一・飯塚 正明 牛谷 智一・大西 好宣・古谷 勝則・松元 亮治	183
●船橋市立中学校におけるものづくりに関わる部活動のオンライン交流	木下 龍・依田 実・坂田 桂一	191
●ソフトバレーボールとヘルスバレーボールの特徴—ルール相違に着目して—	西野 明	197
●児童生徒の疑問に基づいた授業を作るためには何が必要なのかそれは、なぜ、どのように必要なのか?	小山 義徳・道田 泰司・桐島 俊	201
●学校教育の各現場で求められる特別支援教育の今日的な課題(その4) —小児がん患者への切れ目のない教育的支援とその課題—	真鍋 健・任 龍在・井上富美子・日野もえ子 濱田 洋通・北島 善夫・石田 祥代	213
●生活科における秘密基地を題材とした持続可能な単元開発—“片付け”に着目したカリキュラム・マネジメントを通して—	新谷 祐貴・鈴木 隆司	221
●担任と養護教諭のオンラインによる協働授業の実践報告—GIGAスクール環境を活用した新しい保健学習の在り方の開発—	土屋 綾子・野村 純	229
●文化的・言語的に多様な背景をもつ障碍幼児とその家族への支援体制に関する研究—海外の文献レビューを通して—	チャンゴックチャミー・真鍋 健・石田 祥代	241
●造形表現・鑑賞の5つの基本的な内容要素と活動行為から思考、発想方法(見方や考え方)を捉える—造形的な思考力、発想力、造形感覚を培うための視点として—	佐々木達行・小橋 暁子	251
●文部科学省におけるプログラミング的思考に関する議論の過程と内容的特質	荒井 陽貴・佐藤 守・木下 龍	261
●言葉の規則に対する気づきを促す小学校国語授業の実践とその成果	安部 朋世・西垣知佳子・橋本 修・田中 佑 永田 里美・時田 裕・青木 大和・宮本美弥子 滝沢 祐太	271
●小学校における言語知識の学習—外国語と国語の検定教科書の調査—	西垣知佳子・星野 由子・物井 尚子・安部 朋世 橋本 修	279
●Development of an Online DDL Tool for Secondary School Learners	NISHIGAKI Chikako・AKASEGAWA Shiro OGHIGIAN Kathryn	289
●知的障害幼児の保育における仲間関係に関する研究動向—「関係論」によるアプローチから—	細川かおり	299

Ⅱ. 人文・社会科学系

●小学校・中学校の英語教科書におけるブルームの6分類法に基づく思考力の分析	小林 夏音・星野 由子	307
●東日本大震災における福島県の子どもたちの経験—第1報— ～原発事故により避難した子どもたちの語りから～	小清水和美・工藤 宣子	313
●東日本大震災における福島県の子どもたちの経験—第2報— ～原発事故による行政避難を受け入れた地域の子どもたちの語りから～	小清水和美・工藤 宣子	325
●歴史人物の学習を通して「歴史のとらえ方」を考える単元開発研究—義民・佐倉惣五郎を事例として—	小関悠一郎・戸田 善治・鎗木 康平・三島 直也 合田 明生・川名 洋右・杉持 浩之・中野浩太郎 鈴木 凜	337

Ⅲ. 自然科学系

●泡モデル実験装置の再現と泡の生成条件の解明	三上慶一郎・板倉 嘉哉	353
●2進数と16進数表示教材の開発	飯塚 正明	363

Ⅳ. 芸術系

●子供の感性を働かせるピアノ伴奏表現力の養成	竹内由紀子	367
●図画工作科に関する校内研修について—小学校教員の実態調査—	久保田美和・小橋 暁子	377

Contents

Bulletin
of The Faculty of Education,
Chiba University

2022

vol. **70**

I . Pedagogy

●The Concept “Otaku”: Semantic Review	FUJIKAWA Daisuke WATANABE Fumie MITATE Yoshitaka ONO Kenji	1
●Dynamic Factors Increase the Predictive Ability of Assessment Tools on Recidivism for Individuals Under Supervision in Japan	HAZAMA Kyoko KATSUTA Satoshi	7
●Development and Evaluation of Science Classes Incorporating Grounding Wire in Part-time High School	NISHIYAMA Noriyuki YAMASHITA Shuichi	13
●Development and Evaluation of Lessons to Explain Volume Change from Water to Water Vapor Using Blocks to Represent Particles	KANEKO Minoru YAMASHITA Shuichi	21
●Factors Affecting Elementary School Children’s “Consumption Behavior by Desires Beyond Necessity”:	NISHIMURA Mika KUBO Keiko	31
●The Introduction to the History of Educational Psychology (3)	OASHI Osamu	37
●Experimental Attempts to Provide Information from Home Using an Online Tool to School ··· —Students of Special Needs Schools by Focusing on the Training of Physical Therapy to Receive on a Regular Basis—	FUJIMURA Teppei MUKUNO Hikaru	45
●Study of the Way Disabled People are Treated in Books for Primary School Children and the Impact on Their Understanding of Disability	OKAZAKI Chihiro ISHIDA Sachiyo	57
●Current Status and Issues for The Study of Guidance and Counseling in Elementary School ···	SUZUKI Takashi	67
●The Effect of Intercultural Understanding Education for Japanese University Students	FUJITANI Mao ISHII Yutaka	75
●Survey on Knowledge and Interest in SDGs among Students and Teachers of a Junior High School	TSUJI Koji TAIRA Daiki	81
●Reconsideration of Body as Object of Physical Education Focusing on Hidemasa Yatabe’s Body View	SUGIYAMA Hideto	87
●Actual Conditions of PMS / PMDD in High School Students and Their Impact on School Life.....	YAMAGUCHI Haruka NOMURA Jun	99
●Educational Practice Seminar Integrating English Education and Special Needs Education : ··· Towards Appropriate Instruction for Students with Developmental Disorders	HOSHIKA Mami	111
●A Study on the Impact of Environment on Physical Activities During Infancy (2)	MATSUZAKI Yoko ISHIZAWA Junko DOBASHI Kumiko	119
●Emotional Responses, Theory of Mind, and Peer Relationships in Japanese Young Children ···	NAKAMICHI Keito NAKAMICHI Naoko NAKAZAWA Jun	127
●Regulation of Positive Emotion and Peer Relationships in Young Children.....	TAKAHASHI Minori NAKAMICHI Keito	135

●The Relationships Among the Size of Childcare Centers, the Quality of the Childcare Process, and the Socio-emotional Competence of 1-2-year-old Children	YAMADA Chie SUNAGAMI Fumiko IWATA Miho TAKAHASHI Minori NAKAMICHI Keito	143
●Evaluation of Socio-emotional Ability in Children with Autism Spectrum Traits	SUGITA Katsuo NAKAMICHI Keito	149
●Beginning and Continuation of Instructions for Play in Special Needs School Attached to Faculty of Education, Chiba University	SUGAWARA Hiroki MANABE Ken	155
—Focusing on Practice from 1970s to 2000s—		
●An Essay Study on the State of Traditional Culture of Music Education:	HONDA Sahomi	161
Through an Analysis of Music Textbooks for Primary and Secondary School of Republik Indonesia.		
●Practice of the Seminar to Improve Teacher’s Understanding about Educational Counseling ...	KASAI Takahisa	169
●The Survey of Teachers’ Feasibility of Instructional Adaptation in Japanese Elementary Schools :	MIYADERA Chie	177
From the Replication of Tamaki et al.’s Survey.		
●Development of ASCENT Science Education Program for High School Student Supported by Japan Science and Technology	NOMURA Jun ORTEGA J.S. Gutierrez OTO Kenichi TAKAHASHI Toru ADACHI Kinichi IIZUKA Masaaki USHITANI Tomokazu ONISHI Yoshinobu FURUYA Katsunori MATSUMOTO Ryoji	183
●Online Interaction for Extracurricular Club Activities Related to Making Things in Funabashi City, Chiba Prefecture, Japan	KINOSHITA Riew YODA Minoru SAKATA Keiichi	191
●The Research in Characteristic of the Soft Volleyball and Health Volleyball	NISHINO Akira	197
—Comparison of the Difference in Rule—		
●What do we need to create a lesson based on learners questions	OYAMA Yoshinori MICHITA Yasushi KIRISHIMA Shun	201
●Current Topics on Special Needs Education in Regular School, School for Special Needs Education, and University for Teacher Training Course (Part 4)	MANABE Ken	213
Uninterrupted Educational Support and Educational Issues for Children with Cancer	LIM Yongjae INOUE humiko HINO moeko HAMADA Hiromichi KITAJIMA Yoshio ISHIDA Sachiyo	
●Sustainable Unit Development on a Secret Base in Living Environment Studies	ARAYA Yuki SUZUKI Takashi	221
Through curriculum management focusing on “Katazuke”		
●Case Report: Practice of Online Collaborative Lessons with Homeroom Teachers and Healthcare Teacher	TSUCHIYA Ayako	229
—Development of a Novel Method of Health Learning Utilizing the GIGA School Environment—	NOMURA Jun	
●Issues on Support System for Culturally Linguistically Diverse (CLD) Young Children with Disabilities and Their Families :	TRAN Ngoc Tra My MANABE Ken ISHIDA Sachiyo	241
An International Literature Review		
●The Way to the Creative Thought · Idea Method from Content Element of the Art Expression & Activity Act	SASAKI Tatsuyuki KOBASHI Satoko	251
—A Viewpoint to Cultivate a Molding-like Intellectual Power—		
●Process and Content Characteristics of Discussions on Japanese “Computational Thinking” at the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology	ARAI Harutaka SATO Mamoru KINOSHITA Riew	261

●Effects of Japanese Language Classes at Elementary School on Promoting Awareness of the Language Rules of Japanese	ABE Tomoyo NISHIGAKI Chikako HASHIMOTO Osamu TANAKA Yu NAGATA Satomi TOKITA Yutaka AOKI Yamato MIYAMOTO Miyako TAKIZAWA Yuta	271
●Learning Language Knowledge of Elementary School Students : An Investigation of School Textbooks for English and Japanese	NISHIGAKI Chikako HOSHINO Yuko MONOI Naoko ABE Tomoyo HASHIMOTO Osamu	279
●Development of an Online DDL Tool for Secondary School Learners	NISHIGAKI Chikako AKASEGAWA Shiro OGHIGIAN Kathryn	289
●Review of Researches on Peer Relationships for Children with Intellectual and Developmental Disabilities at Early Childhood Care and Education —Possibility of Support from Relational View—	HOSOKAWA Kaori	299

II. Humanities and Social Sciences

●Analyses of English Textbooks in Elementary Schools and Junior High School Based On Bloom's Taxonomy	KOBAYASHI Kanon HOSHINO Yuko	307
●Experiences of Children in Fukushima Prefecture After the Great East Japan Earthquake -First Report-	KOSHIMIZU Tomomi KUDO Noriko	313
—From the Story of Children Who Evacuated Due to the Nuclear Accident—		
●Experiences of Children in Fukushima Prefecture After the Great East Japan Earthquake -Second Report-	KOSHIMIZU Tomomi KUDO Noriko	325
—From the Story of Children in the Area, Who Accepted the Suffering People and the City Function Entirely That Was Damaged by the Nuclear Accident; Administrative Evacuation—		
●Unit Development of Junior High School Social Studies for Thinking about Historical Perspective through Learning of Historical Figures ; Focusing on SAKURA Sogoro	KOSEKI Yuichiro TODA Yoshiharu KABURAGI Kohei MISHIMA Naoya GOUDA Akio KAWANA Yosuke SUGIMUCHI Hiroyuki NAKANO Kotaro SUZUKI Rin	337

III. Natural Sciences

●Reproduction of the Soap Bubble Model Experimental Apparatus and Clarification of the Conditions of Soap Formation	MIKAMI Keiichiro ITAKURA Yoshiya	353
●Development of Teaching Materials to Binary and Hexadecimal Number Display	IIZUKA Masaaki	363

IV. Fine Arts

●Training of Piano Accompaniment Expressiveness That Exercises Children's Sensibilities	TAKEUCHI Yukiko	367
●Proposal for in-School Training on Art Education	KUBOTA Miwa KOBASHI Satoko	377
—A Fact-finding Survey of Elementary School Teachers—		

2021年度外部資金一覧（教育）

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名（事業名）
教 育 学 心 理 学	岩田 美保	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児・児童の感情言及がもつ関係調整機能に着目した他者理解の発達の検討
	大芦 治	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	心理学の一領域としての学校心理学の起源と発展—教育心理学との差別化をめぐる—
	小山 義徳	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	小中学校における「児童生徒の疑問に基づいた授業」の開発
教 育 学	羽間 京子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	保護観察における新たなアセスメントツールの有用性の検証
	高木 啓	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	教員養成における授業実践コンピテンシーと教育学コンテンツの結合
	市川 秀之	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	動員としての教育—クリティカル・ペダゴジーの新展開—
	貞廣 斎子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	教育財政における公私分担・配分構造の再構築と財政原則に関する研究
		基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	新しい教員定数配置システムの政策選択シミュレーションと政策選択構造に関する研究
	藤川 大祐	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	形態素解析を用いた小学生向け語彙学習教材生成システムの開発と評価
	丹間 康仁	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	学習を基盤とした学校統廃合プロセスの検証による地域教育空間持続モデルの構想
助成金		日本公民館学会	ポストコロナ社会における持続可能な公民館活動の課題—利用者研究の展開に向けて—	
国 語 科	安部 朋世	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	言語分析力を育成し国語文法力向上に寄与する国語データ駆動型学習教材開発の研究
	寺井 正憲	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	社会意識の深化を図り異質を編集するコミュニケーション能力の育成に関する研究
	森田 真吾	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	本を介して新たな言語環境を作り出すことを意識した国語科授業開発に関する研究
	佐藤 元紀	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	十五年戦争期の公器「日本詩壇」に見られる地方詩人の文学的営為に関する調査及び研究
書 写 書 道	樋口 咲子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	水書用筆を活用したICT教材及び授業開発と水書用筆を組み入れた書写指導の理論構築
社 会 科	小関悠一郎	受託研究	国立歴史民俗博物館	千葉大学教育学部沿革史料のデジタルデータ化およびデータ公開に関する研究
	小関悠一郎	基盤研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	近世・近代日本における「富国」論の政治的・社会的機能に関する研究
	金 慧	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	カントにおける非理想理論としての国際法論——暫定的領有権の構想
	戸田 善治	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	プロフェッション倫理と市民倫理の相剋を活用した倫理教育のグローバル教材開発研究
	阪上 弘彬	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	ESDと教科固有のコンピテンシーを一体的に育成する中等社会科カリキュラム開発研究
	梅田 克樹	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	酪農セクターの災害レジリエンス形成における社会関係資本の役割
	妹尾 裕彦	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	穀物とイモからみるアフリカ諸国の食料生産・消費をめぐる構造変動

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名(事業名)
社会科	澤田 典子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	古典期のマケドニア王国の権力者崇拝に関する研究：フィリポス2世の治世を中心に
数学科	松尾 七重	基盤研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	教科総合の視点を取り入れた就学前数学教育プログラムの開発
		挑戦的研究(萌芽)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児期の「積み木遊び」と「リズム遊び」がパターン認識能力育成に及ぼす影響の解明
	辻山 洋介	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	問題設定における議論の蓋然性と多様性に着目した証明活動の学習過程の構築と検証
	白川 健	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	フィードバック型形態変動を伴う自由境界の安定構造に対する予測・制御の研究
	澤邊 正人	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	有限群のベキ零部分群複体と付随するクイバーの表現
	前田 瞬	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	リッチソリトン、山辺ソリトン及び極小部分多様体の一般化の研究
理科	加藤 徹也	基盤研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	日本型理科教育の海外展開を目指した現地教育若手人材の研修と物理系教材の開発
		受託研究	墨田区	リテラシー育成のための分析、授業開発及び検証委託
		寄附金	個人	物理教育研究活動
	笹川 幸治	若手研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	幾何学的形態測定法による昆虫口器の多様化機構の解明：オサムシ科幼虫をモデル系に
	山下 修一	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	コア知識とOPPAの知見を統合して発展的課題に対応するワークシートの開発と評価
	泉 賢太郎	助成金	公益財団法人 クリタ水・環境科学 振興財団	干潟堆積物における十脚類由来の環境DNAの分布—水域生態系の大型底生生物の分布・バイオマスの推定を目指して—
		助成金	公益財団法人 住友財団	環境DNA分析・堆積物分析・飼育実験の組合わせに基づくアサリ資源量の高精度推定
	山田 哲弘	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	基材への吸着と二次元分子配列を強相関させた新規界面活性剤型防錆剤の創出
	大和 政秀	挑戦的研究(萌芽)	独立行政法人 日本学術振興会	アーバスキュラー菌根菌胞子果の同定分類と有性生殖の探索
大罵 竜午	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	実験方法の妥当性と信頼性に関する生徒の評価・判断能力の解明とその向上	
英語科	星野 由子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	小中連携を図るための中学入門期における診断用英語語彙テストの開発
	西垣知佳子	基盤研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	小中高大の英語学習者のためのデータ駆動型英文法学習サイトの開発
	石井 雄隆	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	混合研究法を用いた日本人英語学習者のライティングプロセスの解明
	物井 尚子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	児童のL2 WTCを促進する英語教育プログラムの開発・検証とその普及
美術科	宮崎 甲	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	鎌倉期における金銅仏鑄造法の実証研究—那古寺金銅千手観音菩薩像から探る—
	後藤 雅宣	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	重色とブレンディング・モードによる美術教育法に関する比較研究および実証
	佐藤 真帆	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	伝統的なものづくりと新しい文化的アイデンティティに関する研究

2021年度外部資金一覧（教育）

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名（事業名）
美術科	小橋 暁子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	見方・考え方を視点に幼小の接続をふまえた造形教育教員養成カリキュラムの編成
	神野 真吾	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	美術館における社会的課題を踏まえた子ども対象のアート・プロジェクトのモデル化
保健体育科	下永田修二	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	国内外で行う英語教育と体育を融合した体育・スポーツ実践プログラムの開発
	七澤 朱音	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	実践的知識を育成する体育科教育法の構築～講義内容と連携した事例映像の製作と活用～
	小宮山伴与志	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	持続時間の異なる激運動とそのトレーニングに対する中枢直流電気刺激の効果
技術科	辻 耕治	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	東南および南アジアと連携したSDGsへの農業・環境教育からの有効なアプローチ方法
		研究成果公開促進費（ひらめきときめきサイエンス）	独立行政法人 日本学術振興会	「遺伝子も資源である」ことを身近な作物の多様性から学ぼう
	田邊 純	共同研究	(国研) 森林研究・整備機構 北海道育種場	アカエゾマツの品種開発のための精英樹の材質特性の解明に関する共同研究
		若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	樹種ごとの材質特性の多様性を活かしたSTEAM教材開発による木材加工授業の新展開
	飯塚 正明	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	技術科領域におけるグローバルPDLを用いた実証的STEM教育プログラムの開発
	木下 龍	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	現代米国の新自由主義・市場原理主義化の中での技術学教育の教育課程開発実践の行方
家庭科	安藤 藍	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	家族多様化と「子どもの権利」としての〈家庭〉—社会的養護の国際比較分析—
		若手研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	里親経験の社会的解明—日・英の事例から—
	花形 美緒	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	母親役割の段階的移行において必要とされる資源的サポート
	中山 節子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	高等学校家庭科における評価者育成の視点に立った評価開発に関する研究
	米田 千恵	助成金	一般財団法人 東洋水産財団	魚肉のテクスチャーや嗜好性に及ぼすpH調整の影響
特別支援教育	宮寺 千恵	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	不注意ならびに多動性傾向の高さが学業成績や自尊感情に及ぼす影響に関する検討
	真鍋 健	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	幼児期の経験を無駄にしない：「深い学び」の継続支援システムの開発
	石田 祥代	基盤研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	後期中等教育におけるインクルーシブ教育の展望とその方略の提言
挑戦的研究（萌芽）		独立行政法人 日本学術振興会	インクルーシブ教育理論から優秀児の教育的支援を展望する萌芽的研究	
幼児教育	砂上 史子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	発達リスク予防・低減のための保育者研修及び幼児対象心理教育の開発
	松壽 洋子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児初期の子どもの「身体活動に関わる保育環境尺度」の開発
	中道 圭人	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児期のメンタル・タイムトラベルの発達：反事実的思考と未来思考
	淀川 裕美	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	0～2歳児クラスの保育者と子どもの食事の実践・規範・文化の形成に関する縦断研究

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名（事業名）
養護教諭	高橋 浩之	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	教員養成分野におけるジェネリック・スキル育成のための教育的介入の検討
	三森 寧子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児教育におけるソーシャルキャピタルを核とした健康発達資産の醸成に関する研究
	野村 純	挑戦的研究 (萌芽)	独立行政法人 日本学術振興会	ICTでのSociety5.0対応チーム学校の実効化：担任と養護教諭の「溝」解決
研究成果公開促進費（ひらめきと きめきサイエンス）		独立行政法人 日本学術振興会	傷を治す体の仕組みを免疫細胞から考えてみよう	
留学生 教育	吉田 雅巳	挑戦的研究 (開拓)	独立行政法人 日本学術振興会	国立の大規模オンライン講座による市民の公共資料活用支援の可能性
教員養成 開発 センター	土田 雄一	受託研究	公益財団法人千葉県 産業振興センター	2021年度中核人材育成事業（京葉臨海コンビナート人材育成講座）
	磯邊 聡	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	適応上の問題を抱える生徒に対する援助的な視点に基づいた『教育臨床的進路指導』
	大野 英彦	受託事業	独立行政法人 教職員支援機構	ミドルリーダー養成研修
		受託事業	独立行政法人 教職員支援機構	千葉大学教職大学院シンポジウム
笠井 孝久	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	教員を志望する高校生へのキャリア支援：学部教員養成以前の教職カリキュラムを考える	
教育学部 附属 幼稚園	根橋 杏美	奨励研究	独立行政法人 日本学術振興会	園庭の登はん型遊具における幼児のリスクテイキング能力を育む保育者の援助の検討
教育学部 附属 小学校	戸村 拓麦	助成金	公益財団法人 上廣倫理財団	児童を学校教育の主権者としてエンパワメントするための民主主義教育～批判及び変革の担い手を育成する道徳科指導理論の構築～
	中谷 佳子	受託研究	文部科学省	実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究

「千葉大学教育学部研究紀要」投稿細則

1 「論文」原稿の申し込み及び投稿

千葉大学教育学部研究紀要（以下「紀要」という）の投稿期限及び提出先は、次のとおりとする。

- 1-1 投稿希望者は、教育学部研究紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）が定めた期日までに、投稿原稿様式マニュアルに従い作成した原稿を、投稿申込書、投稿者チェックシート等とともに提出する。
- 1-2 提出先は、編集委員会委員長（事務担当：西千葉地区事務部人社系総務課）とする。
- 1-3 論文の著作権は著作者に属するが、各著作者は、本紀要の電子化・公開に必要な限度でその権利が編集委員会によって行使されることを承認するものとする。
- 1-4 投稿原稿について、編集委員会が修正を求める場合がある。

2 「論文」原稿作成について

- 2-1 原稿は原則として日本語あるいは英語によって作成する。日本語と英語以外の言語による原稿の作成がどうしても必要な場合は、和文原稿あるいは英文原稿のいずれかに準じた書式とする。
原稿の種類に関わらず、マージンは、上下左右ともに2.5cm程度とする。ただし、原稿用紙を使用する場合は、原稿用紙のマージンをもって上記のマージンを満たしているものとする。
原稿は全て、なみ字体（英語ではローマン体）とし、太字体（ボールド体）や斜字体（イタリック体）等が必要な箇所は、ハードコピーの原稿に校正記号で指示することが望ましい。なお、手書き原稿においては、これに準じた対応をする。
和文論文の場合、アルファベットを使用している部分を除き、句読点は、横書きは「、」と「。」、縦書きは「、」と「。」を使用する。
- 2-2 原則として横書きで作成すること。ただし、特に必要であるときは縦書きで作成することを認める。
 - 2-2-1 横書き原稿の場合
和文：縦置きA4用紙に、1行40字、1頁40行の1段組で原稿を作成する。
英文等：縦置きA4用紙に、1行40字、1頁40行の1段組で原稿を作成する。
和文、英文原稿に関わらず、表紙（表題、著者名、所属、キーワード、要旨及び表題・著者名・所属に関する脚注）は、本文と同じく1段組みで作成する。
 - 2-2-2 縦書き原稿の場合
和文：横置きA4用紙に、1行40字、1頁40行の1段組で原稿を作成する。
表紙（表題、著者名、所属、キーワード、要旨及び表題・著者名・所属に関する脚注）は、本文と同じく1段組みで作成する。
和文要旨及び英文要旨はそれぞれ、表紙及び本文とは別紙として用意する必要はない。
- 2-3 引用文献の引用方式及び表記方式は特に定めないが、同一論文の中では、同一の引用及び表記方式を用いる。
- 2-4 図及び表の作成方法
 - 2-4-1 図・表は、1枚ずつ別紙に用意し、それぞれの図・表の裏面に、著者名、筆頭著者の所属名と各図・表番号を明記する。また、本文中には図・表の挿入箇所を明示する。ただし、本文中に図・表を挿入した場合は、著者名等の情報を明記する必要はない。
図・表は希望する縮尺サイズを明示する。なお、編集の都合上、図表の縮尺サイズの最終決定権は編集委員会に帰属するものとする。編集上の都合で、著者が希望した以外の縮尺サイズで、図表が掲載された場合、本件に関して異論のある著者は、初稿で示された段階において、編集委員会に対して申し出を行い、同委員会と協議して最終縮尺サイズを決定するものとする。
- 2-5 著者が、作成原稿で使用した言語を母語としない場合、著者の責任においてネイティブスピーカーによる原稿の言語チェックを行うことが望ましい。
- 2-6 著作権に関わる図・表等を引用する場合は、投稿者の責任において著作権保持者から同意を得る。
- 2-7 その他、原稿の体裁に関わる詳細は、別に定める「千葉大学教育学部研究紀要」投稿原稿様式マニュアル（以下「マニュアル」という。）に従う。

3 この細則及びマニュアルの改定は、教育学部図書・紀要委員会の議を経るものとする。

附 則

この細則は、令和元年11月7日から実施する。

この細則は、令和3年8月1日から実施する。

「千葉大学教育学部研究紀要」投稿原稿様式マニュアル

論文題名：和文論文・英文論文にかかわらず、和文タイトルと英文タイトルを必ず用意する。

著者氏名：和文論文・英文論文にかかわらず、日本語と英語を必ず用意する。
英語での表記は略さず、Family Name, Middle Name (お持ちの方のみ), Given Nameの順に記述すること。

著者所属：和文論文・英文論文にかかわらず、日本語と英語を必ず用意する。
教育学部の専任教員及び本学部附属学校教諭であっても、所属を明記する。学生も本人の所属機関、学部名を記述する。なお、学生は、所属末尾に博士課程、修士課程、学部生、専攻生、研究生の別を明記する（社会人の学生は、各自の職場名あるいは学生としての身分のいずれを記述してもよい）。
在学中の研究に関わる論文にあっては、卒業（修了）後であってもその研究を行った時の所属のみを記述してもよい。
所属は必ず主となる所属名を記述（どうしても必要であれば、括弧書きで、その他の所属名を添えてもよい）する。記述にあたっては、学部名あるいはこれに相当するランクの詳細まで記述する。なお、学部は、Departmentではなく、Facultyとして表記する。

連絡著者（Corresponding Author）の明示：著者が二名以上の場合には、必ず連絡著者名を明示すること。連絡先の明示は義務づけがないが、できる限り、メールアドレス等を記述する。

要旨：和文論文は必ず和文要旨を、英文論文は必ず英文要旨と和文要旨を準備する。両要旨ともに段落は設けないこと。

なお、和文論文に関しても、可能な限り、英文要旨を用意する。

英文原稿の和文要旨及び和文原稿の英文要旨は下記のような形式で提出する。

和文要旨は、本文400字以内（句読点は字数に含め、スペース部分は字数に含めない）、英文要旨は、本文300words以内（カンマ、ピリオド等は字数に含め、スペース部分は字数に含めない）とする。いずれの場合も、字数、用語数は厳守する。

キーワード：和文論文、英文論文ともに、5語以内のキーワードを、必ず日本語及び英語で準備すること。記述順序は、重要なワード順とする。

欄外見出し：和文原稿では和文40字以内、英文原稿では英文50字以内の欄外見出しを決定し、投稿者の責任において原稿投稿時に提出する。

和文論文作成マニュアル

和文論文は、次の記入例に従い、1頁目に表紙、2頁目に本文、最終頁に英文要旨等の順に作成すること。

注：英文要旨を作成しない場合も、英文の論文タイトル・氏名・所属・キーワードを明示する。

記入例 [和文の場合]

[1頁目] 表紙

日本語でのタイトル

千葉太郎¹⁾・教育 好²⁾・紀要進造¹⁾・教育修子³⁾

1) 千葉大学・教育学部

2) 世界教育研究所・環境科学部門

3) 千葉大学大学院・教育学研究科・修士課程

参考：博士課程学生は東京学芸大学連合大学院教育学研究科・博士課程という様式で記述する。
学部生の場合は千葉大学教育学部・学部生という様式で記述する。
専攻生の場合は千葉大学教育学部・専攻生という様式で記述する。
研究生の場合は千葉大学教育学部・研究生という様式で記述する。

要旨

キーワード：宇宙・教育・日本・学部・大学

*連絡先著者：E-メールのアドレス等を記述

[2 頁目] 本文（和文）

序

1 目的

2 方法

3 結果

4 考察

謝辞

引用文献

注 本文の章立てについては、必ずしも通し番号をつける必要はない。

[最終頁] 英文要旨等

英語でのタイトル

CHIBA Taro¹⁾, KYOIKU Ko²⁾, KIYO R. Shinzo¹⁾ and KYOUIKU Shuko³⁾

1) Faculty of Education, Chiba University, Japan

2) Division of Environmental Science, The Institute of World Education, USA

3) Faculty of Education, Chiba University, Japan; Undergraduate Student

Abstract 本文（可能な限り用意する。）

Key Words: Universe, Education, Japan, Faculty, University

* Corresponding author : E-メールアドレス等を記述

注 1 : 上記例示の氏名中の「R.」はミドルネーム。

注 2 : 英文での氏名の表記は、姓を最初に示し、名を後に表記する。また、姓はすべて大文字で表記する。

英文論文作成マニュアル

英文論文は、次の記入例に従い、1 頁目に表紙、2 頁目に本文、最終頁に和文要旨等の順に作成すること。

記入例 [英文の場合]

[1 頁目] 表紙

英語でのタイトル

CHIBA Taro¹⁾, KYOIKU Ko²⁾, KIYO R. Shinzo¹⁾ and KYOUIKU Shuko³⁾

- 1) Faculty of Education, Chiba University, Japan
- 2) Division of Environmental Science, The Institute of World Education, USA
- 3) Faculty of Education, Chiba University, Japan; Undergraduate Student

Abstract 本文

Key Words: Universe, Education, Japan, Faculty, University

* Corresponding author : E-メールアドレス等を記述

[2 頁目] 本文 (英文)

Introduction

- 1 Propose
- 2 Method
- 3 Result
- 4 Implication

Acknowledgements

References

注 本文の章立てについては、必ずしも通し番号をつける必要はない。

[最終頁] 和文要旨等

日本語でのタイトル

千葉太郎¹⁾・教育 好²⁾ *・紀要進造¹⁾・教育修子³⁾

- 1) 千葉大学・教育学部
- 2) 世界教育研究所・環境科学部門
- 3) 千葉大学大学院・教育学研究科・修士課程

要旨

キーワード：宇宙・教育・日本・学部・大学

*連絡先著者：E-メールアドレス等を記述

注1：上記例示の氏名中の「R.」はミドルネーム。

注2：英文での氏名の表記は、姓を最初に示し、名を後に表記する。また、姓はすべて大文字で表記する。

CD-R・USBメモリ等の提出に関する依頼事項

原稿は、ハードコピー（1部）とCD-R・USBメモリ等（以下「CD-R等」という。）の両方の方式で提出する。

イタリック体等の字体に関してはハードコピーに、赤字で字体等の指示を明記することが望ましいが、必ずしも行う必要はない。通常汎用されているパソコンソフトであれば、いずれのソフトを使用して原稿を作成してもよい。ただし、ワープロ専用機を使用する場合は、原稿作成者の責任においてパソコン対応ソフトに変換することを条件とする。

図・表に関しても可能な限り、版下となりうるデータをCD-R等に保存し、提出することが望ましい。

ハードコピーで提出する図・表の裏には、1枚ずつ図・表の番号、所属・氏名等を記入する。

提出CD-Rには、使用OS名、ソフト名を明記する。（USBメモリ等の場合は、同様の内容についてメモを添付すること。）

千葉大学教育学部研究紀要 第70卷

2022（令和4）年3月1日発行

編集兼 〒263-8522
発行人 千葉市稲毛区弥生町1番33号
千葉大学教育学部

印刷所 〒113-0001
東京都文京区白山1丁目13番7号
勝美印刷株式会社
電話 03(3812)5201

